

土木の日

～関連団体あいさつ～



建設業は暮らしを支える基幹産業

日本建設業連合会
副会長・土木本部長 押味 至一

我が国は多くの自然災害リスクを抱えるとともに、地球温暖化の影響により、自然災害の頻発化・激甚化が進んでいます。本年も線状降水帯に伴う被害が発生しており、8月6日から発生した大雨では、九州や北陸など広範囲に渡って記録的な豪雨となりました。お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申上げます。

また、本年1月に埼玉県八潮市で発生した下水道管破損が原因と考えられる道路陥没事故にみられるように、日本経済を支える屋台骨であるインフラの老朽化、劣化の影響が顕在化してきています。

国民の生活・財産を守り、国家・社会の重要な機能を維持するためには、防災・減災、国土強靭化対策とインフラ老朽化対策が特に重要であり、そのために建設業、とりわけ「土木」が果たす役割には、非常に大きいものがあります。

日建連は、民間投資の誘発、経済の活性化も含めた社会資本整備の役割とともに、防災・減災、国土強靭化の更なる推進の必要性について幅広い共通認識を醸成すべく、国土交通省、関係団体及び経済団体等と連携し、全国各地でシンポジウム形式の講演会を開催しています。本年度は北海道、北陸、東北の3地区において開催し、地元経済団体や自治体、大学等に幅広く参加を呼びかけ、多くの方にご参加いただきました。

また、建設業は、社会資本の整備や維持を通じ、国民の安全・安心と豊かな暮らしを支える極めて重要な役割を担う基幹産業であり、将来にわたりその使命を果たしていくなければなりません。そのためには、建設業が携わる方々の処遇を改善し、手を確保していくことが何よりも重要です。日建連は、引き続き、処遇改善による他産業を上回る給与水準の実現、週休二日の浸透や時間外労働の削減などの働き方改革、DXの推進による生産性の向上、積極的な広報活動によるイメージアップ等に注力し、「給与が良い・休暇が取れる・希望が持てる」に「かっこいい」を加えた「新4K」の建設業に生まれ変われるよう、業界一丸となって取り組んでまいります。

今年も「土木の日」及び「くらしと土木の週間に」に関連するイベントには是非多くの方々にご参加いただき、豊かな国民生活と多様な経済活動を支えるインフラの役割などについて、一緒に考えていただく機会となることを願っています。

「土木の日」に寄せて
—未来への礎を築くために—土木学会
会長 池内 幸司

土木という言葉には、「人々の暮らしを支える社会の基盤を築く」という本質が込められています。道路や橋、堤防やダム、上下水道などの社会資本は、私たちの生活を支えるだけでなく、産業や文化の発展、地域の持続的な成長を支える「礎」として、長い年月にわたりその役割を担ってきました。

近年、地球規模で進行する気候変動や自然災害の激甚化・頻発化、少子高齢化や人口減少といった社会構造の変化が、私たちの暮らしと社会基盤に新たな課題を提起しています。こうした変化に立ち向かうためには、従来の延長線上にある発想を超えて、多様な知恵を結集し、次代の社会を見据えた「新しい土木」の創造が不可欠です。

さらに、デジタル技術の発展や生成AIの登場により、社会の構造や運営のあり方が大きく変容しつつあります。土木の分野も、データサイエンスやロボティクスなどを活用し、より安全で強靭なインフラの構築と、効率的な維持管理へと確実に発展しています。同時に、災害時の迅速な対応や復旧・復興を支えるための情報共有、地域の合意形成を支援する可視化技術など、デジタルの力が人と人との協働を支え、社会を支える新たな基盤となりつつあります。こうした変化の中でこそ、技術の中心に常に「人」を据え、人間の安全と尊厳を守る視点を失わないことが、私たちに求められています。

私たち土木技術者は、未来社会のかたちを構想し、実装する存在でもあります。次世代の若い手たちが希望を持ってこの分野に飛び込み、誇りを持って活躍できるよう、社会との対話を重ね、土木の魅力と価値を積極的に発信していくことも、私たちの重要な責務です。

「土木の日」は、私たちの専門分野が社会と深く結びついていることを改めて認識し、その意義と使命を共有する日でもあります。この日に関連して全国各地で開催される講演会、パネル展示、見学会、体験イベントなどを通じて、土木が果たす役割や社会資本の大切さ、そして安全で豊かな暮らしを支える仕組みに関する理解を深め、未来の社会と共に考える契機となることを期待しています。



習志野建設関連4団体54人が宮本市長が加わり、地域一体となったボランティア活動に取り組んだ

ICT施工システム(マシンコントロール/マシンガイダンス)

作業確認が容易な大画面モニタを搭載し、的確なツムーズな施工をサポート!

従来のような丁張り作業や接槎作業の不要(見渡)で、作業時間の短縮によって最大40%の生産性向上(見渡)が可能です。

マシンコントロール(MC)

施工目標面に沿った手配を実現。モニターの映像を見ながらの操作に加え、必要な操作を機械がサポート。振り過ぎを気にせず、スピーディかつ効率よく作業が行えます。

■3DCMシステム構成例(リソリューション)

3Dモデルを用いて、機械の位置情報を正確に把握。データを基に機械の位置を自動的に調整する。

SITEMCH SITECH Trimble Authorized Dealer

マシンコントロールシステム(MCG)

モニターに施工目標面(2D)とマシンの位置(3D)を表示して、オペレーターに必要な操作をガイドします。定めた大きさでの削除や、一定角度の面積整理作業などが安心かつ効率的に行えます。

SH135X SH235X

SH135X SH235